

# ロータリー米山記念奨学事業の基礎知識

## —— 奨学金制度編 ——

### ★ ロータリー米山記念奨学会について

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会は、日本のロータリーが共同で運営する奨学財団であり、財源は主に会員の寄付で成り立っています。日本独自のプログラムですが、国際ロータリーからも国内全34地区の多地区合同活動として認められています。1967年に財団法人設立、2012年1月には公益財団法人に移行しました。

### ★ 支援の対象は外国人留学生

事業開始から一貫して、日本の大学・大学院などで学ぶ外国人留学生を対象にしています。2017年4月採用の奨学生数は全国で780人（枠）と、外国人留学生を対象とした民間の奨学金では国内最大規模です。これまでに累計で、世界125の国と地域からの留学生1万9,808人を支援しています（2017年7月1日現在）。

### ★ 交流を通じて国際親善と平和に寄与

事業の始まりは1952年、東京ロータリークラブ（RC）の当時の会長、古澤丈作氏によってつくられた、海外、特にアジア諸国から優秀な学生を日本へ招き、奨学支援する「米山基金」の構想にさかのぼります。

「米山」とは、“日本のロータリーの父”と呼ばれた故・米山梅吉氏（1868～1946）のことです。タイから初めて奨学生を迎えたのは2年後の1954年。以降は、海外からの招へいではなく、在日留学生への支援に方針を変え、東京RCの単独事業から全国の地区に拡大・発展しました。留学生数の増加に伴い、ロータリー所在国に限らず世界への門戸を開くなど、時代とともに変化しながらも、ロータリアンと外国人留学生との交流を通じて国際親善と世界の平和に寄与するという事業の目的を今日まで貫いてきました。

### ★ 最大の特徴は世話クラブ・カウンセラー制度

その目的を実現するための制度が「世話クラブ・カウンセラー制度」です。米山奨学生には、地域のロータリークラブから「世話クラブ」が選ばれ、会員の1人が「カウンセラー」となって、日常の相談相手や交流の橋渡し

役となります。奨学生は毎月1回以上、世話クラブの例会や奉仕活動に参加し、大学生活では得られない出会いと交流を通じて、日本の心、ロータリーの心を学びます。会員にとっても、多様な文化や価値観への理解を広げる機会になっています。

### ★ おかげさまで、財団設立50周年を迎えました

今年7月1日、米山記念奨学会は財団設立50周年を迎えました。戦後間もない頃から受け継がれてきたこの事業は、継続的な寄付、そして奨学生へのお世話という形で、多くのロータリアンに支えられてきました。国際理解と世界平和の実現を願って、日本との懸け橋になる人材の育成に心血を注いでくださったのです。

その尽力の結晶である元奨学生「米山学友」は、世界を舞台に多方面で活躍しています。駐日大使や政府の通訳者、教育・研究者として日本とのつながりを持ち続ける学友、ロータリアンとなり、ガバナーになる学友も出てきています。個人の活躍だけでなく、「学友会」も大きな存在です。現在日本に33、海外に9つの学友会があり、創意工夫しながら奉仕活動を実施しています。

米山記念奨学事業は、事業創設から65年、財団設立から50年を経て、実りの時を迎えています。今年度の“よねやまだより”では、その半世紀にわたる歩みを振り返りながら、事業の成果をお伝えする、1年間限定のシリーズをお届けします。どうぞご期待ください。

### ★ 奨学金の種類と特徴（2017年4月～18年3月）

ロータリー米山記念奨学金一覧	月額	期間	募集システム	人数
1. 学部課程（YU）	10万円	最長2年	指定校推薦	747人
2. 修士課程（YM）	14万円			
3. 博士課程（YD）	14万円			
4. 地区奨励	7万円	1年		15人
5. クラブ支援	14万円	6か月／1年	世話クラブ推薦	2人
6. 海外応募者対象	10万円（学部生） 14万円（大学院生）	2年	公募	23人
7. 海外学友会推薦	14万円（渡航・住居費別）	1年	海外学友会推薦	6人

「よねやまだより」では、毎年8～9月号に“基礎知識”を掲載しています。「米山って何？」という新しい会員にはもちろん、「昔から知ってはいるが、最近のことはあまりよく知らない」というベテラン会員にも、現在の米山記念奨学事業の基本的な情報をぜひ知っていただければと思います。初回の8月号は「奨学金制度編」、次回9月号では「寄付金・財政編」をお届けします。



## ■ 学部課程・修士課程・博士課程奨学金

### —— 大学・大学院生対象のプログラム

大学（高専専攻科、専修学校高度専門士課程を含む）・大学院の正規留学生が対象で、採用者の9割以上を占めます。2017学年度は学部292人、修士265人、博士190人が採用されました。各地区の米山記念奨学委員会が指定校を定め、推薦された学生を面接選考して合格者を決定します。奨学生が世話クラブに通える範囲内で、地区外の学校も指定校にできます。

## ■ 地区奨励奨学金

### —— 大学・大学院以外の教育機関を対象とするプログラム

地区の裁量によって、短大・高専・専修学校などを指定校にし、在籍する留学生を1年間支援できる制度です。奨学金額が修士・博士課程の半額である代わりに、1人の枠につき2人を採用できます。近隣に大学がない地域にも世話クラブを広げることによって交流の機会が広がり、事業への理解を得られる効果が期待されます。2017学年度は5地区で15人が採用されました。

## ■ クラブ支援奨学金

### —— 現役奨学生のための期間延長プログラム

現役奨学生の世話クラブが、奨学期間を延長して支援したい場合に適用されるプログラムで、6か月または1年の選択制です。延長期間の奨学金の半額を、世話クラブが負担します。博士号取得見込者のほか、上級課程へ進学する現役奨学生が対象です。ただし、延長によって地区の新規採用数が減るため、採用を控える地区もあります。

## ■ 海外応募者対象奨学金

### —— 海外在住の日本留学希望者が応募できる制度

日本での留学先が決まっている外国人が、海外から個人で応募できるプログラムです。最も困難を伴う来日初年度から支援でき、奨学期間は2年間です。2017および2018学年度を本プログラムの促進期間と位置づけ、従来のように希望地区に限定せず、全地区で募集します。すでに日本で学ぶ留学生からの選考ではないため、日本語がほとんど話せない応募者への対応が難しいという課題がある一方、国籍や人材の多様化を実現することができるプログラムです。

## ■ 海外学友会推薦奨学金

### —— 海外学友会との協同プログラム

海外の米山学友会が、各国内で日本留学希望者を募集・選考し、推薦するプログラムです。2018学年度は前年同様、台湾に2人、韓国と中国に1人ずつの推薦枠が与えられます。すでに博士号を保持し、大学などに勤務する教授・上級研究者を対象に、日本での研究活動を1年間支援する研究助成プログラムです。この制度は、海外学友会の活性化や現地での米山奨学金の認知度向上にも役立っています。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp

## 財団設立50周年記念誌を発売！

（公財）ロータリー米山記念奨学会では、財団設立50周年の記念誌『ロータリー米山記念奨学会50年のあゆみ』を6月末に刊行しました。日本のロータリーの創始者・米山梅吉氏の生涯と東京RCによる米山基金の設立、財団法人化とその後の組織拡大、奨学事業の試行錯誤と変遷、巣立った学友の活躍など、当会が歩んだ歴史を余すところなく記録しています。国内外の全学友会の紹介、50周年記念特別座談会、年表も掲載。これを読めば、「よねやま」のすべてが分かります！ クラブに1冊、お手元に1冊、米山記念奨学事業への理解促進に、ぜひご活用ください。限定3,500部、1冊1,800円（送料込み）で頒布します。

お申し込みは当会ホームページ [www.rotary-yoneyama.or.jp/50th](http://www.rotary-yoneyama.or.jp/50th) をご覧ください。

